

徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会 小松島港区活性化プラン(案)の概要について

徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会
ワーキンググループ

①策定の趣旨

- ・策定の背景および目的
- ・検討方法・対象
- ・検討の視点

②現状の整理

- ・本港地区の状況
- ・クルーズ船の寄港状況および経済効果
- ・内航船(安全支援港・休憩バース)の利用

③活性化プランの検討

- ・本港地区が目指す将来の方向性
- ・取組方策
- ・本港地区の活性化プラン及び小松島港区全体への展開

④実現化方策

- ・事業の展開
- ・次世代の担い手を育てる仕組みづくり

⑤参考事例

- ・(参考1)取組例
- ・(参考2)意見・要望
- ・(参考3)公民連携事例

①策定の趣旨(1)

■委員会設置の背景

徳島小松島港を取り巻く環境の変化

港湾背後への高速道路延伸、新たな企業立地の動向、クルーズ船寄港の増大、トラックドライバー不足、南海トラフ地震の切迫性の高まり、港湾施設等の老朽化、陳腐化など徳島小松島港を取り巻く状況は大きく変化。

なかでも、徳島小松島港へのクルーズ船の寄港は、年々増加しており、平成31年は、過去最多の13回、来県者数が2万人を突破する見込みなど、クルーズ船の更なる寄港増大が見込まれている。

現状の対応

港の活性化については、「徳島港区」では、「万代中央地区」において、徳島市中心部の水辺に位置するレトロで、趣ある倉庫群のロケーションを活かし、積極的に既存倉庫や水域の「新たな利活用」を推進しており、港を核とした活性化が着実に進んでいる。

「小松島港区」では、これまで、港の活性化に資することができる緑地の整備や、官民学で構成される「小松島みなとまちづくり協議会」において、フリーマーケット等のイベントを開催するなど活性化に向けた取組などが行われてきた。

■設置目的

本プランは、特に「小松島港区」における「クルーズ船寄港の増大」など「小松島港区」を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、この度の「中期構想」の検討を契機に、「徳島小松島港」における中期構想との整合を図りつつ、「小松島港区」を対象として、港からの活性化方策を策定する。

- ①徳島小松島港の長期的(概ね20年程度)なイメージを構想。
- ②長期的なイメージに至るまでの中期的(概ね10年程度)な計画として中期構想案(施設整備や協働調査といった行動計画を伴う)を策定。
- ③中期構想との整合を図りつつ、港からの活性化方策を小松島港区について策定。



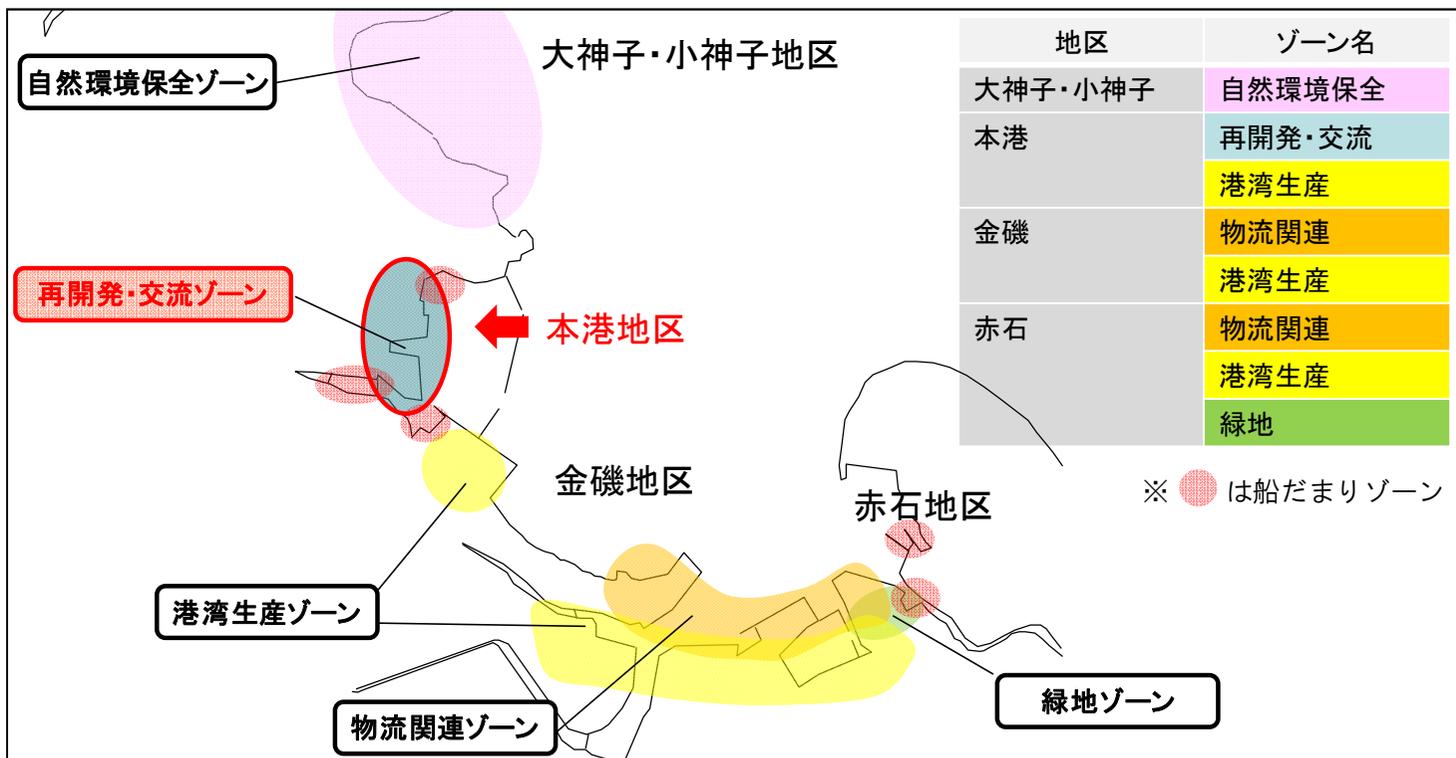
①策定の趣旨(2)

■検討方法・対象

活性化に必要な視点：物流・人流2つの視点

- ①物流： 貨物や施設の需要からの検討 ⇒中期構想・活性化検討委員会で検討
- ②人流： 人を呼び込む仕組みづくりからの検討 ⇒ワーキンググループで検討

⇒港湾計画において「再開発・交流ゾーン」と位置づけられ、小松島市中心部に近く、「kocolo」などの交流拠点が立地する「本港地区」を代表エリアとして検討を行った。



■検討の視点

- 視点① 海上から本港地区への呼び込み ⇒クルーズ客、内航船乗組員の本港地区への呼び込み
- 視点② 陸上から本港地区への呼び込み ⇒小松島中心部からの流れを本港地区まで誘導
- 視点③ 各施設を繋ぐ回遊性の提供 ⇒海・陸の結節点となりうるkocoloを核とした活性化

②現状の整理(2)

■中期みなと再生ビジョン（平成19年度～平成23年度）

中期みなと再生ビジョンの提言(骨子) (案)

2007年3月 徳島小松島港みなと再生ビジョン検討会議

■ 計画の期間

2007年度～2011年度(5ヶ年)

■ 計画の区域

小松島みなとアアシスゾーン

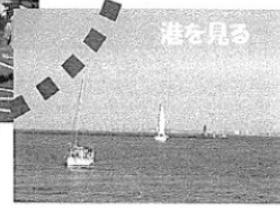


■ 目的

- ・ みなと再生活動の継続
- ・ みなと再生活動の目標・施策の共有化
- ・ 連携によるみなと再生活動の効率化

■ 計画の目標像

- ・ 小松島みなとアアシスを拠点とした地域共生型のみなと再生を目指す
- ・ みなとを活かした賑わい創出＝「みなとに集う」
- ①港を使う ②港で楽しむ ③港で憩う
- ④港で食べる ⑤港を知る ⑥港を見る
- ・ 年間20万人の交流センターKocolo 入り込み人数を目標



■ 推進の基本方針

- ・ 「小松島みなとアアシスゾーン」に集中して推進
- ・ 自主財源強化・民間活力活用の取り組みを重視
- ・ これまでの陸域資源の活用に加えて、港の活用・海域資源の活用を重視

■ 推進の方法

- ・ 市民・NPO・行政・企業等の各関係者の意欲的連携を重視した、関係者の協働により推進 →「みなとアアシス連絡会議(仮称)」の設置
- ・ 必要な場合、中期みなと再生ビジョンは、適宜見直しを行う

■ 取り組みの体系(案)

取り組みの柱	取り組みの内容	みなとの目標像(港に集まる)						取り組み時期			
		凡例 共通	港を使う	港で楽しむ	港で憩う	港で食べる	港を知る	港を見る	早期	中期	長期
■ みなとアアシスの拠点づくり	みなとアアシスのイメージ確立	●	*	*	*	*	*	*	○		
	みなとアアシス機能整備・利用者サービス向上	●	*	*	*	*	*	*	○	○	*
	バスターミナル機能の検討(実施)		●							○	*
	みなとアアシスのPR促進	●	*	*	*	*	*	*	○		
■ 自主財源と民間活力活用	遊休県有地の民間活力活用	●							○	○	*
	みなとビジネスホテルの育成(既存)	●								○	
	みなとビジネスホテルの創出(新規)	●								○	
	指定管理者制度の導入検討	●							○		
■ 資源活用の強化(海、陸)	全国一活動づくりの推進		●	●						○	
	海域資源を活用した「食」機能の充実			*		●			○		
	既存活動の継続強化(海域・陸域)	●	●	*	*	●	●		○		
	新たな海域体験の創出	●	●	●	●	●	●			○	
	みなと文化の活用	*	●			●	●	*		○	
■ 施設整備	Kocolo 建物施設整備		●	●	●	●	●	●		○	
	周辺施設整備		●	●	●			●		○	
	協働連携	●							○		
■ 人材育成・組織強化	協働連携の場づくり(新規)	●							○		
	協働連携の場づくり(既存)	●							○		
	関係者との連携強化	●								○	
■ 人財育成・組織強化	NPO こまつしま組織強化	●							○		
	みなと再生活動での人材育成	●								○	

③活性化プランの検討

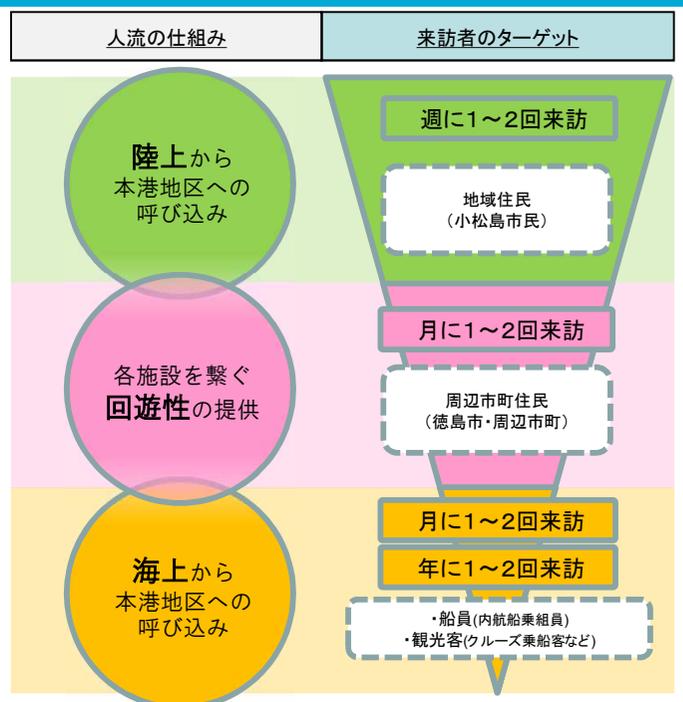
■本港地区が目指す将来の方向性

人を呼び込み、昔の活気あふれる“元気な「みなとまち」の再生”を目指す

■取組方策

- ①みなとに来る「目的」をつくること
 - ⇒ みなとに来る動機付けが必要
- ②居心地の良い「空間」をつくること
 - ⇒ 滞在時間を長くする工夫が必要
- ③「目的」に関連した「ビジネス」ができること
 - ⇒ 来訪者がリピートしたくなる商いが必要

地域の賑わい
空間として認知



■本港地区の活性化プラン及び小松島港区全体への展開

人を呼び込む工夫(核となる人材確保、コンテンツ作り)

- ①定期的なイベント開催
 - ⇒ 来訪目的を作り、港に集客
 - ⇒ 周辺施設(あいさい広場、大正館)・関係団体と連携したサービス
 - ⇒ 市内にぎわい創出、若手事業者の起業支援
 - ⇒ 港周辺の観光コンテンツを創出、紹介
- ②観光案内(多言語に対応)による利便性の向上
 - ⇒ 目的施設や利便施設(トイレや手洗い、休憩場)の紹介
 - ⇒ 情報誌やHPを使った情報発信
- ③休憩バスとしての活用による、内航船を誘致
 - ⇒ 寄港中の乗組員の生活需要、港の賑わい
 - ⇒ 津波等大規模災害への事前対策
 - ⇒ サイン計画(遊歩路に看板設置)、観光マップに遊歩場所記載

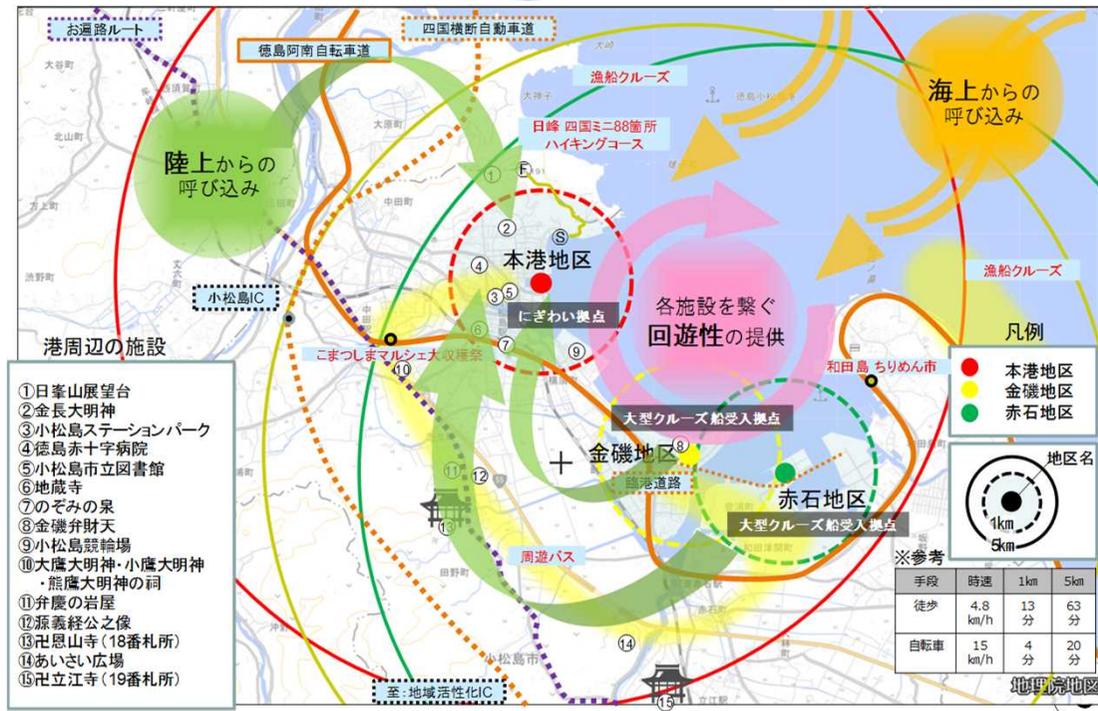
小松島港本港地区の活性化に向けた提案

日峰 四国ミニ88箇所ハイキングコース

安全支援港としての利用促進

- 安全支援港としての利用促進
 - ⇒ 寄港しやすい立地を活かし、安全支援港(休憩バス)としてPR
- 観光船(クルーズ船)
 - ・クルーズ船受入れ環境の整備(岸壁の老朽化対策)
- 既存倉庫の利活用
 - ・倉庫の利活用
 - ⇒ クルーズ船寄港時のイベント等
 - ⇒ 店舗誘致、起業促進
 - ⇒ アート化、壁面緑化
- kocolorの機能強化(指定管理者制度の導入、規制緩和など)
 - ・店舗機能
 - ⇒ 地域住民向けの専門店や滞在型店舗(店舗・食事処)
 - ⇒ 観光客向けの物販、土産(地元産物)
 - ⇒ 朝市と連携した「食」の提供
 - ・サービス拠点機能
 - ⇒ ハイキング、サイクリングの中継地、拠点利用として、健康サービス・リフレッシュ機能の提供
 - ・レジャー拠点(釣り施設、漁船クルーズ等)
 - ⇒ 道具レンタル等関連サービスの提供
 - ⇒ 体験型観光コンテンツの提供
 - ・交通拠点機能
 - ⇒ 市内周遊、近隣観光の移動手段(レンタサイクル等)の提供
 - ⇒ 朝市、各種イベントの開催

「小松島港区全体に展開」



④実現化方策 ～事業展開～

- 次世代の担い手を他所から「招く、探す」のではなく、自ら育てる。⇒（ターゲット：移住者、学生、地域住民等）
- これから取り組む新しいコトに若い世代（次世代の担い手）をワークショップの開催等を通じて巻き込む



ステージ(場)の提供

kocolo



活用方策の公募 → 商業機能の強化 → 公民連携により取組を継続

- ・出店希望者、若手事業者募集
- ・指定管理者制度の導入
- ビジネスを通じた賑わい
- ・新規事業の促進、支援
- ・波及効果の高い事業支援
- ・運営の支援

H15社会実験実施時



県有倉庫・
緑地・公園




実証実験 → 規制緩和 → 公民連携により取組を継続

- 例：リビングラボ
- ・活用希望者の募集
- ・港湾計画等の更新
(利用に合わせた制度整備)
- ・新規事業の促進、支援
- ・波及効果の高い事業支援
- ・運営の支援

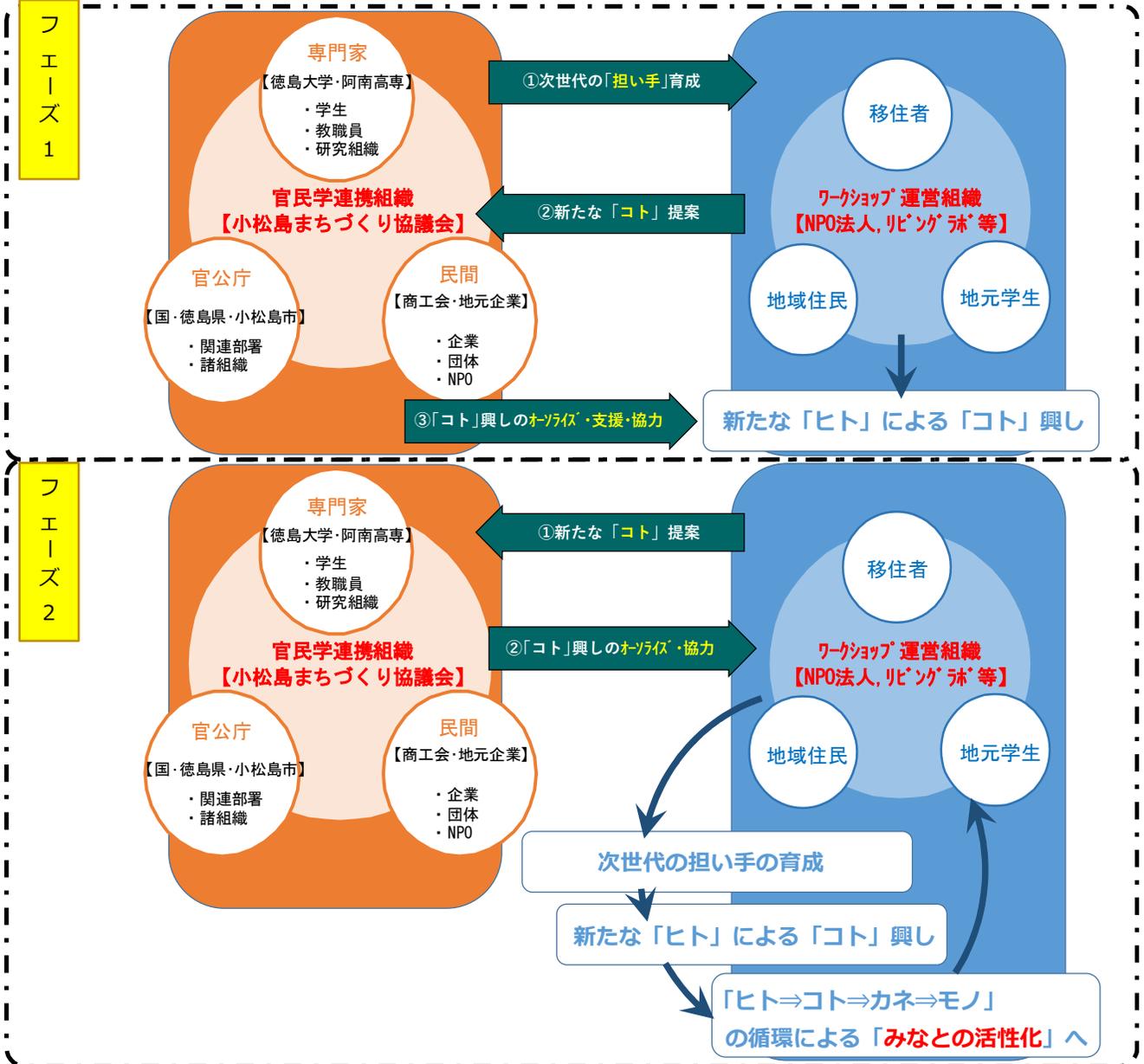
万代中央地区の例




H30こまつしまはちち狸まつり

④実現化方策 ～次世代の担い手を作る仕組みづくり～

○既存の官民学連携組織を活用し、実現に向けた方向性のオーソライズ・支援・協力を行う仕組みを作る。
 ○「ヒト」が「コト」を興し、「コト」で「カネ」が廻りだし、「カネ」で新しい「モノ」が生まれる「ヒト→コト→カネ→モノ」という循環を生み出し、「みなとの活性化」を図る。(⇒行政をはじめとする周りのサポート)



【フェーズ1】

- ・まず、官民学で組織される「小松島まちづくり協議会」が議論の場となるきっかけ作りを行う。
- ・NPO法人・リビングラボ等既存の組織においてワークショップを通じて出されたアイデアの実現に向け取り組む(新しい担い手の育成)。
- ・新しい「コト」の提案に対し、「小松島まちづくり協議会」が実現に向けた方向性のオーソライズ・支援・協力を行う。

【フェーズ2】

- ・NPO法人・リビングラボ等既存の組織において、自らワークショップの運営を通じて、次世代の担い手の発掘・育成に取り組む。
- ・次世代の担い手の発掘・育成を通じて新しい「コト」の提案を行い、「小松島まちづくり協議会」が実現に向けた方向性のオーソライズ・協力を行う。
- ・NPO法人・リビングラボ等既存の組織の自立的な活動を通じて、新たな「ヒト」による「コト」興しを繰り返すことにより、「ヒト→コト→カネ→モノ」という循環を生み出し、「みなとの活性化」を図る。